—害　虫　篇—

トビイロウンカの越冬について

川瀬英爾・石崎久次

（石川県農事試験場）

昭和27年に石川県下に大発生をみたトビイロウンカの越冬について河北郡花園村の平坦田と山間田で調査したところ，越冬卵は，1）既孵化卵（幼虫がでたあとの卵）。2）未孵化卵（主として本種幼虫が孵化するもの）。3）被寄生卵（主として卵寄生蜂が羽化するもの）。4）寄生蜂脱出卵（卵寄生蜂が羽化したあとの卵）。5）斃死卵（黒色卵と白色卵に分けられ，幼虫も卵寄生蜂もでてこないもの）の5種類に分けられた。また，24°C 下の定温器内で孵化試験をしたところ，秋から2月2日までは幼虫がでてくるが，その後は卵寄生蜂ばかりが羽化した。トビイロウンカでの孵化率の最高は52%，卵寄生蜂の寄生率の最高は50%で，その平均は平坦田では 13.3%，山間田では 12.9%であつたが，斃死率の最低は10月2日が4%で，厳冬期をすぎて4月になると 100%となつた。トビイロウンカの卵が2月2日以後に孵化しない原因は，2番芽が霜に曝されたり，降雨などで土砂がはねかえり産卵莖が腐敗することと，山間田では藍藻の1種が産卵莖に侵入して卵塊を包むためではないかと考えられる。

トビイロウンカの越冬調査現況について

望月正己・田口　聆

（富山県農業試験場）

富山県でのウンカの，いわゆる〃ツボ〃はセジロウンカでは明らかでないが，トビイロウンカやその類似種については，山間部にツボと思われるものが見られる。平坦部でも越冬は可能と思うが調査には棲息密度の高いツボを眼ざすのがよいであろう。ところが，この調査地は何れも石川県との県境なので調査上大きな支障を来している。このツボでは少数の成虫（長翅型）は秋冬まで残るが早春には発見できない。卵は秋冬期に非常に多数発見できるが殆んどが寄生蜂による寄生卵ばかりで無寄生卵を求めることができない。トビイロウンカの卵は秋冬期には幼虫体形成までの各発育段階のものがみられるが，そのうち，越冬環境に長く耐え得るものは発育の進んでいない卵に限るようである。而して，調査に好都合であつた昭和27年には調査中の卵も翌春には寄生蜂（*Anagrus* sp.）の羽化をみてしまつた。この事実は，ヒメトビウンカの越冬幼虫体内でカマバチの1種が越冬するのをみていることから考えると，宿主が越冬することと寄主が越冬することとは関連があるのかも知れない。即ち，富山県での本種の越冬は特にツボに於て考えられ，翌年の発生は秋冬期に於ける卵より行われるものであろうと考えられる。

イネとヒエにつくウンカについて（予報）

川瀬英爾・石崎久次

（石川県農事試験場）

著者らはウンカ発生調査の目的で水田を巡回中，ヒエの叢生地には早くからセジロウンカモドキの密度が高いことや，ヒエの多い水田にウンカの発生の多いことなどをよく見た。そして，イネ刈取あとのヒエにウ